

児童発達支援自己評価 結果報告 (令和2年 3月公表)

児童発達支援 ところ園

	チェック項目	はい	どちらとも言えない	いいえ	改善目標 工夫している点等
環境 体制 整備	1 利用定員は指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	33%	67%		・基準は満たしているが、決して適切とはいえない。 ・利用定員上限いっぱいだと狭いと感じる。職員もたくさん居てくれるため、よりそう感じるのかも。
	2 職員の配置や専門性は適切であるか	67%	33%		・基準人員の倍以上が配置され、非常勤職員さんに関して有資格者多数とキャリアの高い方が多く、子育て経験も豊富な方も多くいらっしゃる。
	3 事業所の設備等は子どもの障がいへの配慮が適切にされているか	33%	67%		・バリアフリーも良いが、段差を少しの頑張りでもクリアできることも大切と捉える。しかし、二階であるため階段がある。階段は無くせるとより良い。 ・玩具の要求カードが制作途中になっているため、進めなければならない。
業務 改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	33%	67%		・PDCAサイクルを回すことはできても、その振り返りや改善案を出す会議に非常勤職員さんの参加を求めることが難しい。
	5 保護者向け評価表等アンケート調査を実施して保護者の意向を把握し、業務改善に繋げているか	67%	33%		・保護者の方から頂ける意見は「私たちの気づき」になり、とても感謝している。 ・配布されたので目を通したが、職員全員での結果についての話し合いが出来るが良い。
	6 この自己評価の結果を、お便りやホームページ等で公開しているか	100%			・HPに掲載。紙ベースでも依頼があれば配布することをおたよりに載せている。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善に繋げているか	67%	33%		・第三者評価を外部委託して行うことは金銭面にも関わってくるため難しく思っていたが、現在、安価に行う方法を模索している。関係機関や保護者見学会、相談支援員さんの訪問を積極的に行うことで風通しの良い事業運営を心掛けている。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	33%	33%	33%	・外部研修は非常勤職員さん含め、積極的に受講している。法人内研修では「現在の課題」としてピンポイントに勉強会が開催できるが、児発の運営上、療育時間とは別に時間を取ることが難しく、法人内研修参加の課題がある。 ・「確保」はされていないように感じる。	

適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	67%	33%	<ul style="list-style-type: none"> ・本当は契約時に更なる時間を頂戴し、子どものお話をしたいのだが、契約に2時間近く（行政指導の下、重要事項の説明をなるべく漏れることなくおこなっています）必要とするため、別日にお子様同伴の体験を可能な限り多く行い、活動をするなかで保護者の方との関わりも見せていただきながら、情報の共有を図っている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	67%	33%	<ul style="list-style-type: none"> ・設問9と同様、時間に限りがあるため、25問程度に簡素化したアセスメントツールを使用。必要に応じて2時間程度の時間を設け、評定尺度を用いて行う。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムは職員会議で話し合い立案している。 ・新しい職員とも一緒に考えていたり、非常勤職員さんからも意見をもらったりしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	67%	33%	<ul style="list-style-type: none"> ・4月より新生ところ園として新たな活動や、活動から活動へ移行する行動の切り替えが、よりもっとわかりやすく、子どもが取り組みやすい環境設定を作る。 ・なるべく固定化しないようにと考えているが、空間に限界があるため難しい。色々と物の使い方を工夫していきたい。
	13	子どもの状況に応じ、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、個別支援計画を作成しているか	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は一日の流れ（タイムスケジュール）をさらに細かく作り、活動の切り替わりを行動と気持ちの切り替えという一つの活動と捉え、給食後には消化を促すためにも静的活動として「認知トレーニング」や「個別発語音楽」などを取り入れていく。
	14	支援開始前に職員間で必ず打ち合わせをし、支援の内容や役割分担について確認しているか	67%	33%	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、療育開始前にミーティングを行っているが、ところ園は6時間療育を行っており、その他の業務を行う時間を作ることに苦慮している。令和2年度より、療育時間外の時間の使い方も細かく業務スケジュールに起こし、今まで以上に時間が設けられる曜日もあります。やはり10分程度のミーティングしか行えない曜日もある。
	15	支援終了後には、職員間で支援の振り返りを行い、気づいた点を共有しているか	67%	33%	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度より、上記に挙げたように療育時間以外の時間の使い方をスケジュールに起こし、一日の会議時間を倍以上に増やす予定。 ・常勤職員は出来るが、非常勤職員さんとの時間もとれると理想的。

適切な支援の提供	16	日々の支援に関し正しく記録をとる事を徹底し、検証・改善につなげているか		33%	67%	<ul style="list-style-type: none"> ・支援記録を振り返る時間を持っていない。時間関係は課題が残る。上記同様令和2年度より改善を図る。（記録の振り返り時間設定） ・記録をとるまで時間がなく、書けない事が多いので時間が取れるようにする。
	17	定期的にモニタリングを行い個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	100%			<ul style="list-style-type: none"> ・適宜行っている。
	18	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	67%	33%		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが関係している機関とは、相談支援専門員さんや常滑市さんにも協力いただき、横の繋がりを広める働きかけを行っている。
	19	相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した者が参画しているか	67%	33%		<ul style="list-style-type: none"> ・児発管のみならず、現場職員も参加できるような人員配置を行ったり、開催時間の相談を行っている。 ・今までは出来ていなかったと思う。体制が変わって行かせてもらえるようになった。
関係機関や保護者との連携	20	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	67%	33%		<ul style="list-style-type: none"> ・児発管のみならず、現場職員も参加できるような人員配置を行ったり、開催時間の相談を行っている。
	21	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	33%	67%		<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスとは連携を取りやすいが、省庁違いは難しい面もある。
	22	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携しているか	67%		33%	<ul style="list-style-type: none"> ・より横の繋がりを大切に行っていきます。
	23	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		33%	67%	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放などを薦め、保護者の方が行かれることはあるが、事業所の活動としては行っていない。園庭開放の薦めや保育園等の交流を希望される方には保育園等と繋ぎ、行えるよう話を進めている。
	24	自立支援協議会へ積極的に参加しているか	100%			
	25	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	67%	33%		<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時の少ない時間ではあるが、一日の姿や連絡事項を伝えている。保護者の方も、日報に付箋などで相談事などを書いてくださり、共有を図らせていただいている。送迎時は時間が限られているため、日報の他に連絡ツールがあると良い。 ・送迎時の受取・引渡の際に、なるべく様子を伝えられるようにしている。

関係機関や保護者との連携	26	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	67%	33%	・法人には4つの事業所があるため、児発の枠が取れない年もあるが、できる限り皆様の希望を取り行っている。
	27	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	67%	33%	・契約時に丁寧に説明を行うため、できる限り多い時間を頂戴している。支援の内容は契約とは別日に見学に来ていただき、活動を見ていただきながら説明を行っている。お子さまの体験もできる限り多く来ていただいている。
	28	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	67%	33%	・面談を年2回設けている。それ以外にも希望があれば行うが、保護者発信になっているため、茶話会の開催などができると良いが、療育6時間の課題である。
保護者への説明責任等	29	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%		・設問28同様。 ・日報に付箋でお手紙を書いてくださる方もいる。
	30	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	100%		・とこっ子親の会は会員50名と大きくなり、完全任意団体であるが法人登録児童の半数に上る。活動参加率も上がっており、令和2年度の年間活動計画も、茶話会で皆様の意見を聞かせていただき作成した。 ・保護者参加日をなるべく2家族以上同じ日にするようにしている。
	31	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%		・前例はないが、迅速な対応が取れるようフローチャートでマニュアルに起こし、体制を整えている。保護者控えファイルを作成し、見返ししやすい物にしている。
	32	定期的にお便り等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%		・職員の取組みにより「子育てトピック」や「豆知識」など、読みやすく、保護者様の興味を引く内容のおたよりになっている。 ・月に一度のおたより発行。
	33	個人情報に十分注意しているか	100%		・紙ベースの情報は書庫で管理。個人情報の多い事務局のネット回線は先進のセキュリティが掛かっている。また、サーバーにデータ保存を行い、各PCにデータを残さないことでウイルスによるデータ抽出を防ぐ。
	34	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	67%	33%	・日報は生活面などの記入欄や保護者様記入欄を設けており、情報共有がしやすい様式になっている。令和2年度より、朝の体温記入欄などの項目を増やし、フリー記述スペースは減らした形で、保護者様の負担は増えないよう配慮しながら、必要情報を収集する。

保護者への説明責任等	35	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	33%	33%	33%	・法人運動会を毎年開催できている。地域住民の参加は少なく、関係機関の方々が少し来ていただいている段階。もっと地域に開かれた形を作ることは課題が残る。
	36	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		100%		・マニュアルはしっかり策定され、放デイは「マニュアル読み合わせ」を週一で行い職員周知を図っているが、ところ園はこれから時間を作っていくかなくてはならない。怪我や災害などの緊急時対応、虐待や苦情の対応については契約時に説明しファイルで保護者様へ渡しているが、防犯や感染症マニュアルはそこにはないため、周知をどのように行っていくか決めていく必要がある。 ・保護者へは分からない。
非常時等の対応	37	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%			・防災訓練を行った際は、おたよりにてお知らせしている。
	38	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	67%		33%	・初期情報としていただき、適宜更新している。
	39	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	67%	33%		・前例はないが、アレルギー情報も初期情報としていただき、専門の助言をいただく。
	40	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		33%	67%	・設問36同様。令和2年度より、会議のあり方を変える。時間の有効活用を打ち出し、マニュアル、ヒヤリハット作成と共有時間、セルフチェック（自己評価）、虐待チェック（疑わしき行動はないか）等、課題は多くある。現在は試験的に時間の有効活用が始まる段階。そこから業務効率化のPDCAを回していく。 ・最近取り組めていない。
	41	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか		33%	67%	・把握できてない。順次ではあるが行っていく。そこに加え設問40のセルフチェックを定期的に行っていく。
	42	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか	33%	67%		・前例はない。契約時に重要事項として説明し、必要が認められたときは支援計画を保護者の方と作成し「どのようなときにあり得るか」「どのような対応が取れるか」を話し合う。必要に応じストラテジーシートなどのツールを用いてチームで話し合う。
43	遊具・施設等の安全点検を定期的に行い必要な措置がされているか	100%			・定期点検や年数によりメンテナンスが必要と認められたものは修繕を行う。	